

第1回上士幌町総合戦略検証会議 議事概要

日時：平成28年6月21日（火）10：00～11：40

場所：山村開発センター第2研修室

出席者：竹中委員、千葉委員、馬場（久）委員、森岡委員、早坂委員、市田委員、西田委員、山田委員、森委員、福田委員、加藤委員、長谷川委員、川野委員、中井委員、馬場（敏）委員、堀江委員、黒沼委員、工藤委員
山田北海道十勝総合振興局地域創生部地域振興課主査
企画財政課長、町民課長、保健福祉課長、建設課長、農林課長、商工観光課長、農業委員会事務局長、子ども課長、生涯学習課長
企画財政課参事、企画財政課主幹、企画財政課主任

概要

1 開会

○配布資料の確認

○【資料4 上士幌町総合戦略検証シート】の修正。

14ページ→肥満の人の割合、乳がん検診受診率、子宮がん検診受診率、胃がん検診受診率、肺がん検診受診率、大腸がん検診受診率の追記。

2 委員紹介及び委嘱状交付

【資料1 上士幌町総合戦略検証会議委員名簿】

○町長から委嘱状の交付

3 上士幌町総合戦略検証会議設置要綱の承認について

○承認

4 上士幌町総合戦略検証会議委員長及び副委員長の選任について

○上士幌町総合戦略検証会議設置要綱第5条

○委員長 竹中町長、副委員長 千葉副町長 選任

○委員長あいさつ

- ・昨年10月に、今後5年間の施策目標と2060年の人口目標を定めた「上士幌町人口ビジョン・総合戦略」を策定したところ。
- ・策定に当たっては、各機関及び団体からの御意見、議会の意見及び町民からのパブリックコメントを踏まえながら決定したところ。
- ・日本の人口は減少時代に入り、更に今後加速していきだろうという想定の下で、国力の維持あるいは国の経済を維持するため、人口減少を最小限にとどめるための目標値を国及び自治体が設定したところ。

- ・ 2060年に、国として、現在、約1億2千万人の人口を1億人程度確保することとし、本町においては4,066人という目標設定をしたところ。
- ・ 現在の人口は4,900人程度であり、非常に高い目標値である。そのため、当面5年間の施策目標及び数値目標を定め、毎年検証を行いながら実行していくこととしているが、その検証を行うのが本会議の目的。
- ・ 策定してから、まだ半年しか経ておらず成果が見えづらいところもあるが、今年1月から5月までの人口は32人増となっており、原因については細かく分析していないが、最近には見られない状況である。
- ・ 人口ビジョンでは、社会増減については毎年13人増えることによって、また、自然増減については、少子高齢化の時代ということもあり、亡くなる人が増えるのはやむを得ないが、出生率が上昇するという前提で、2020年に4,762人という目標値を達成することができる。
- ・ 27年度の社会増減を見ると目標値を達成することができたところであり、極めて良い状況にある。
- ・ 今後、数値目標、KPIを細かく検証しながら、新たな行動を起こすというPDCAサイクルをしっかりと進めていくのが重要。
- ・ 検証も含め課題について各委員から意見を頂き、行政としては速やかに実行に移していきたいと考えている。
- ・ 今回は27年度の検証結果について、ご審議頂きたい。
- ・ 第2回検証会議については11月頃予定しているところであるが、具体的に戦略を実行に移すという決意をもって、皆さんの知恵をお借りしたいと考えている。よろしく願いたい。

5 総合戦略の効果検証について

【資料3 総合戦略の効果検証について】

○資料に基づき企画財政課参事から説明。

○第2回総合戦略検証会議については11月頃の開催を予定。

6 平成27年度上士幌町総合戦略施策検証について

【資料4 上士幌町総合戦略施策検証シート】

○基本目標ごとに各課等から説明。

○基本目標1 地場産業で地域の活力を生み出すまち について

(長谷川委員)

「無料職業紹介所の開設」についてであるが、登録企業数30社は町内全ての企業が登録しているということなのか。全てでなければ100%の企業登録を目指すべきではないのか。

(町民課長)

全ての企業が登録しているわけではない。希望する企業に対して取材を行い登録したところ。登録希望があれば追加を行っていききたい。

(長谷川委員)

企業の採用予定等のマネジメントの問題もあると思われるが、上士幌町にはこういう企業があるということ、全国に周知した方が良いと思う。

(竹中町長)

これからの活動の中で、求人について聞き取りを行うなど、しっかりやっていかなければいけない。

(長谷川委員)

「家庭形成に向けた出会いの機会創出支援」であるが、他の自治体でも参加者を確保するのが難しいと聞く。理由の一つは、どうだ、こうだと周りに冷やかしみたいな人がいて、なかなか参加する意欲が湧いてこない、ということである。確かに参加する青年、女性の確保も大前提であるが、組織作り、場作りというのもきちんとしていかなければいけないという議論がある。帯広畜産大学では、今年の入学者の6割近くが女性ということで、若い女性が農業に意識が向いている。また、十勝では未婚の女性も含めた若い女性が中心になって、「農と暮らしの委員会」を発足させている例もある。パーティに参加することも必要であるが、長期的な視点に立つと、女性のみに限らず若い農業経営者が、自ら組織を作り、その組織を活用してこの地区の農業の生産性をどのようにより高めていくかという問題意識をもって、一緒に活動していく中で、次の後継者が生まれるという、そのような組織作りも将来に向けて取り組んではどうかと思う。

(竹中町長)

ここでは農業後継者というくくりで記載しているが、それ以外の若者も含めた出会いの機会であるなど、他の課で取り組もうとしている事項もある。

(企画財政課長)

J A 青年部と商工会青年部が主体となり出会いの場を作っていくという予定がある。町としては、それに対する支援を行う予定をしているところである。これらの組織主体がとりあえず実行委員会という形を取るが、それが定着するための組織作りという動きもでてきているので、これらの活動を大切にしていきたいと考えている。

(竹中町長)

民間でも、このような機会を作るという動きも出てきている。運営のあり方など十分に考えながら、今後進めていきたいと思っている。

○基本目標2 子育て・教育の充実したまち について

(竹中町長)

教育の成果というのは時間が掛かるので、こういった様々な取組がやがて成果につながっていくと考えている。

(黒沼委員)

子育て・保育所世代の方だと金銭的な支援があり、小学生にはコミュニティ・スクール制度の導入を始め、充実した支援がある。高校生世代までの医療費の無料化という支援はあるが、中・高生に対して上士幌高校への町内からの進学率を上げるためには、高校卒業後の進学・就職のライフステージのイメージができるような施策があれば良いのではないかと考える。また、町外の高校にも進学する生徒もいるので、その世帯への支援、施策、特にバス通学者が多く、路線の確保などの声も聞こえてくるので、その辺りの施策もあれば良いと考える。

(子ども課長)

現状、高校生に対する具体的な施策はないところであるが、町としては18歳までの子育てにかかる経費をいかに軽減して、その後の就職、大学進学への資金として活用できるかと考えているので、町外の高校に通学している生徒に対しても具体的な施策がないという状況。ただ地元の高校に進学しているというのは、経済的に町外の高校に進学できないという世帯もあるので、その部分の支援というのは必要である。まずは上士幌高校が存続しなければいけないということも併せ、今、公営による学習塾を町として創設できないかということで検討に入っているところであり、試行として夏期及び冬期講習会の実施を考えているところ。

(竹中町長)

人口減少というところで言うと、顕著な数値が出ているのはこども園の入園者であるが、昨年4月102名だったのが、現在128名程度となっている。今年の年末までに130名を超えられると思うが、このような状況を見ると無料化というのは大きなインパクトがあったところである。このことによって、特に0～1歳児の母親が働き始めることができ、新たな雇用が生まれているということで、地域の経済、産業に波及しているという状況が見られる。こういったことが、やがて人口減少にも変化が起きてくると考えている。小学校についても、ハードを立派にするのも大事なことであるが、そこでどのような教育を受けることができるのかということが大切だと考える。そのような動きが高校にまでつながっていかねばいけない。ここの学校では願いがかなわないという思いが親や本人にもあるのかもしれないが、この願いをどの様にかねえていくかという意味では、大学進学あるいは就職の希望したところに行けるように、どのように教育の充実を図っていくのかというのがポイントの一つになると思う。公営塾の話もあったが、学力を高めることによって一時期は町外に流出する生徒もいるかもしれないが、全体的に上士幌高校のレベルを上げていくと、やがて上士幌高校に対する信頼が厚くなって、積極的に進学したいという子どもたちが出てくるような学校にならなければいけない。このような議論は既に進められている。若者がいなくなるというのは活力の減退につながるので、教育の充実というのは非常に大切な要素だと考えている。

○基本目標3 健康で安心して暮らせるまち について

※資料の修正 16ページ◇高齢者の住まいの確保 27年度取組内容

(誤) 介護保険法若しくは障害者自立支援法に規定する住宅改修 2件 200千円

(正) 介護保険法若しくは障害者自立支援法に規定する住宅改修 25件 1,500千円

(質疑、意見等なし)

○基本目標4 移住定住による人口減少をくい止めるまち

※資料の修正 18ページ◇ふるさと納税寄付者との交流の推進

(誤) もっと伝えたい、もっと知りたい上士幌フェア(東京)来場者 約1,300人

(正) もっと伝えたい、もっと知りたい上士幌フェア(東京)来場者 約1,700人

(質疑、意見等なし)

○基本目標5 小さな拠点形成を目指すまち

(質疑、意見等なし)

○プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版CCRC

(質疑、意見等なし)

【参考資料 上士幌町人口の動き】

(竹中町長)

人口減少にどう立ち向かうかというのが総合戦略の大きなテーマである。基本目標及びプラス・ワンの総合的な成果が、人口の減少歯止めに反映されてくると思われる。26年度は社会増減が56人の減、自然増減が34人の減、最終的に94人の減であった。27年度は社会増減が91人の増、自然増減が54人の減、最終的に36人の増となっている。これは、27年度の4月に64人増となっているが、それまで住民基本台帳に外国人がカウントされておらず、4月からカウントを始めて64人増となっている。この外国人の増加が48人なので、純粋に増えたのは16人ということになる。これを勘案すると社会増減は43人増となり、最終的に12人の人口減となる。この数値は当初目標と比べるとかなり高い数値になる。人口ビジョンでは、社会増減は5年間で65人増としており、年間13人増となれば目標値は達成でき、762人維持できるということなので、非常に頑張った年であると思われる。今年の3月の31人増、認定こども園の入学者が4月に増えたこと、これらも関連性があるのではないかと考えられ、子どもを持つ世帯が移住してきていると推測される。暦年で見れば32人増えており、ここしばらく見られなかった現象である。この状態が続けば、人口の増加が期待できる。そのために、総合戦略の施策をいかにスピードを上げて実施するのかというのが、極めて重要であると思われる。このことも含め、全体的にご意見があればお願いしたい。

(長谷川委員)

企業誘致及びテレワーク事業に取り組まれていくと思われるが、切り口は違うが、町外の企業及び人を呼び込みという点でリンクするところがある。これらも含めて、少しでも上士幌の良いところを日本全国に発信していただきたい。その中で興味を示す企業があれば誘致していくというように、重点的に取り組んでいくべきである。

(竹中町長)

企業誘致であるが、すぐに工場を立ち上げて稼働するというのはなかなか難しい。十勝製菓については、現在、工場の建設に入るような状況になっているが、そのきっかけはテレワーク。テレワークがきっかけで上士幌と縁ができて、工場を建てるということになった。27年度の実績は0件だが、28年度はふるさとチョイスという、ふるさと納税のサイトを運営している企業の誘致が決まっている。本町では支店という形になると思うが、パート従業員を5人募集しており、今のところ3人が決まった状況。なかなか求人の方も大変で充足できていないが、やがて5人確保できると考えている。

(長谷川委員)

この地域が持っている観光産業に対するポテンシャルは非常に高いと思っている。観光客の入込数であるが、10年度に53万人、26年度は36万人となっている。これは大雪グラウンドホテルの閉鎖の影響もあるかと思うが、観光産業はまだまだ高みが目指せられるので、今後更なる取り組みも必要である。

(商工観光課長)

ぬかびら源泉郷関係では、中央園地の整備、温泉街周辺を歩けるネイチャートレッキングの整備を進めている。また、道の駅の基本計画と併せてレストハウスの基本計画の策定も予定している。道の駅を拠点としながら、本町にある観光資源を結び付け観光客を誘客したい。28年度は体験観光ということで、8月には全町的に体験メニューを通じたフェアの開催を予定している。参加者に対してアンケートを取りながらビジネス化につながるような取り組みを進めていきたい。

(竹中町長)

昨年10月に総合戦略を策定して、まだ間もない時間しかたっていない。11月の委員会のときには28年度の動きがお知らせできると考えている。

【資料5 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）に係る事業実施結果】

- 資料に基づき企画財政課参事から説明。
- 当該4事業は国の交付金を活用して事業を実施。
- 各事業のKPI及び実績値は資料のとおり。意見があればいただきたい。
- 意見等特になし。